

整形外科のPRP治療を始めます！

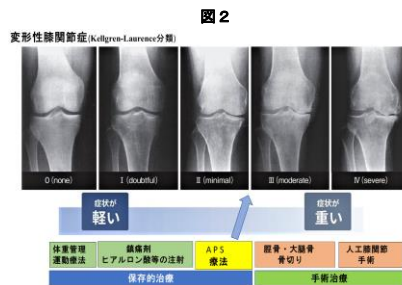
◎『PRP治療』って何？

傷が塞がりかさぶたができ、やがて元通りに治ったり、打撲・捻挫で傷んだ組織が修復される自己治癒機転に、血小板が重要な役割を果たしています。これは血小板に含有される、組織を修復するさまざまな成長因子の働きによるものです。『PRP治療』とは“自分で自分を治す力(自己治癒力)を高める治療法”で、ヨーロッパやアメリカで2000年以降、主にスポーツ傷害に対して行われ、良好な治療成績が報告されています。日本のプロ野球選手(田中将大選手や大谷翔平選手)が受けた治療法としても有名です。

我が国でも2018年8月より、筋・腱・靭帯損傷や、変形性関節症・関節炎に対する保存療法の最先端治療(再生医療)として認可され、新しい治療法として注目されています。治療効果が期待される疾患には、図1のような疾患がありますが、今回膝関節を中心とした変形性関節症(図2のgradeⅡ,Ⅲ)に重点をおいて、このPRP治療を行う予定にしています。



図1. PRP療法の適応疾患



(1)実施方法

外来で患者さんの静脈血(約55ml)を採取し、遠心分離機にかけてPRPを抽出します。筋・腱・靭帯損傷では、抽出したこのPRPを約2ml局部に注射しますが、変形性関節症ではさらに遠心分離して抗炎症成分などの関節の健康に関与する成分を取りだし、関節内へ注入します(図3)。この関節内に注入する自己蛋白質溶液(Autologous Protein Solution: APS)から本治療を『APS療法』と呼んでいます。治療報告では、1回の注射で1.5~2年の治療効果(疼痛の軽快、炎症の消退など)が報告されています。

(2)治療の安全性と副作用について

自分の血液を使用するため安全は高く、また2016年より閉鎖式の血液成分分離キットが使用できるようになり感染リスクも減少し、安全で再現性を持って必要成分の分離・抽出ができるようになりました。副作用もアレルギーや感染の心配がなく、とくに重篤な合併症はみられません。一般的な副作用では、関節内注射後の局所の痛みや腫れ、ときに発赤や灼熱感がみられますが、多くが一過性です。



(3)問題点

大きな問題点は、本治療が自由診療で健康保険が利かないことです。費用は各施設が独自に設定していますが、当院では変形性関節症・関節炎では1回30万円、筋・腱・靭帯損傷では10万円(ともに税別)に設定しています。また、治療当日は自由診療のため、鎮痛剤や湿布などの処方できません。

(4)施設認可

2014年11月より再生医療法(再生医療等の安全性確保等に関する法律)が施行され、それまで医療機関が自由に行っていた本治療に対して、国が定める基準を満たすとともに、届出が必要となり、当院でも準備を進めてきましたが、10月11日再生医療等委員会の認可が下り、11月より開始することとしました。

治療に関する質問等がございましたら、整形外科外来にお気軽にお尋ね下さい。